

# これまで集積してきた経験と技術を、日本の未来のために役立てたい 福島原発行動隊の発足とこれから

東北地方太平洋沖地震に伴う津波により電源を喪失し、核燃料の溶融を起こした福島第一原発。この大事故を前に、今まで培ってきた技能や技術を役立てたいと各界から結集した退職技術者たちの取り組みを牧山ひろえ参院議員が紹介する。

## 福島原発行動隊との出会い

東日本大震災以来、私の選挙区である神奈川県の方たちからの、特に小さい子どもがいる親御さんから放射線に関する電話やファックスが来るようになった。

そんな矢先、福島原発暴発阻止活動について、退職した技術者が相談したいという話が舞い込んできた。それを聞いたときに真っ先に懸念したのは、相手が退職者ということとは、当然高齢者だということだった。危険を伴う作業であれば、それを後押ししてい

いものだろうかという心配があった。

その一方で、放射能汚染の拡大に国民の不安と懸念が高まっている時期に、こんな正義感のある志の高い方々の活動について耳を傾けなくていいのかという思いもあり、話を聞いてみることにした。

**「若い人たちに代わり自分たちが行く」。呼びかけに賛同して多くの隊員が集まる**

「今は応急対策として遠くから放水しているが、しっかりとした冷却設備を作って、長期にわたって冷やし続けなくてはいけない」と、この行動プロジェクトの発起人で、現在は「一般社団法人福島原発行動隊」を組織化し、その

**牧山ひろえ** (まきやま・ひろえ)

参院 神奈川県選挙区 1期

理事長でもある山田恭輝さんは説明を始めた。「テレビで若い人がどんどん構内の危険区域に

入っていく姿を見て、いてもたってもいられなくなった。危険を伴う場所では、私たち退職技術者が若い人に代わって作業するべきではないか。私たちは技術と経験があり、30年後にガンになるようなことがあったとしても、われわれはその時は既に100歳。若手作業員の場合は、これから子どもを生む可能性もあります。若い人たちに行かせるくらいなら私たち退職者が行くしかない。そう思ってメールで呼びかけたところ、自分が動いてもいいという人がたちまち124人。それを応援しようとして、いわゆる後方支援をしようという人が560人集まったんです」(福島原発行動隊は、原則60歳以上の退職した志願者による。6月25日現在で行動隊員682人、賛助会員1624人)

「この先何をどうすればいいと思いますか?」との山田さんからの問い掛けに、「それでは、国会で院内集会を開いたらどうでしょうか?」多く



院内集会であいさつする牧山議員。院内集会の日程についてのご案内は、牧山ひろえのHP [www.makiyama-hiroe.jp](http://www.makiyama-hiroe.jp) まで

の国会議員に呼びかけて、話を聞きに来てもらいました。マスコミにも来ていただき、一般の人たちにも院内集会のの中身を見てもらった

## 本格活動へ向けて

福島原発行動隊は、原発内及び20キロメートル圏内での環境汚染モニタリングやがれき処理、除染等の作業に参加を希望しているが、いまだに原発の現場そのものに入っ

■本の紹介 行動隊の発足からこれまでの取り組みなどを紹介。

## 福島原発行動隊 今、この国に必要なこと

山田恭輝 著



被爆による社会への影響を可能な限り少なくしたい  
山田恭輝 (福島原発行動隊 理事長)  
さわやかな志と  
福とした情熱のもとで  
山折哲雄 (参院議員)

老人の頭脳と技術こそが  
生き返る日本の誇り  
高橋三千綱 (作家)  
高い志を持った人たちの  
活動を支援したい  
牧山ひろえ (参院議員) 監修



私が行動隊を後押しするにあたって、四つの大前提がある。それは、①行動隊が活動するにあたり最善の安全性が確保されること②どんなに注意をはらってもリスクが伴うということ③行動隊員本人も家族も承知の上であること④行動隊員の家族の理解や承諾を得ていること④行動隊員が健康であり、健康で

の作業までには至っていない。しかしただ腕組みして待っているわけではなく、福島県内をはじめ各地で放射能汚染モニタリングの要員養成のための研修会や、一般人を対象とした放射能に関する学習会などを実施している。

私は20代から米国で弁護士活動の傍ら、貧困地域での医療活動を支援する団体を10数年続けてきた。議員となった今はそうした公益団体を後押ししたいと思い、日本でも少額の寄附を税控除の対象とするよう取り組んできた。

行動隊の活動が本格的に稼働するには多くの障壁があるが、応援し続けていきたい。それは、福島原発行動隊のように、市民による公益活動が定着していくためにも必要なことだと考えているからだ。

Book advertisement for 'Fukushima Nuclear Power Plant Action Team: What is needed for this country now' by Masahiko Yamada. The ad includes the book title, author's name, a photograph of the book cover, and a list of contributors and their roles. The contributors mentioned are Masahiko Yamada (Chairman of Fukushima Nuclear Power Plant Action Team), Masahiko Yamada (Member of the House of Representatives), Takashi Yamazaki (Member of the House of Representatives), Takashi Takahashi (Author), and Hiroe Makiyama (Member of the House of Representatives, Editor-in-Chief).